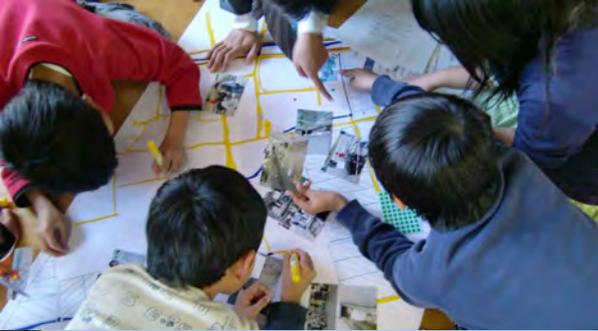


子どもたちが
笑顔で暮らし続けられる
流域の将来をデザインする。



Q どんな環境問題の研究をしていますか？

海水などが蒸発し、雨や雪となって大地に降り注ぐと、地表水や地下水として川に集まり、やがて海に流れていきます。このように循環する水は、時には大きな災害をもたらしながらも、私たちの社会経済、文化を支えるとともに、豊かな流域生態系を育んできました。流域政策・計画学研究室では、流域の水循環と社会システムとの相互関係に着目し、持続可能な流域社会の実現に向けた政策や計画に関する研究を進めています。

Q どんな環境問題の卒業研究を指導してきましたか？

河川・水辺の自然再生、琵琶湖岸の砂浜・ヨシ帯再生、生態系サービスの評価、洪水災害リスクの評価、減災型治水システムの社会実装、人工知能を使った水害対応支援、環境・防災を統合した教育プログラムの開発など、「流域」で顕在化する多様な問題を扱ってきました。最近では琵琶湖・淀川流域に視野を広げ、大阪湾の海ごみ発生源対策や広域的な水源保全制度の設計、Eco-DRR、グリーンインフラなども扱っています。

- ・Eco-DRR (Ecosystem based Disaster Risk Reduction) 生態系を活かした防災・減災
- ・グリーンインフラ 社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるもの。

Q 学科への入学を検討されている方へ一言

社会を変えるための虎の巻を託します。社会が直面する課題を解決していくために、どのようにサイエンスを活かし、どのように政策・計画を立案していけばよいのか、しっかりと身につけてもらいます。



教員 瀧 健太郎先生

瀧先生は、社会や環境をよくするための研究に取り組んでいて、このような社会に役立つ研究を一緒に手伝ってくれる仲間や学生を募っています。担当した学生が社会で必要とされる人材となるよう、時に厳しく、時に優しく、熱心に指導してくれる先生です。

- ・趣味 川チャリ（川を自転車で行く）、カヤック、スキーなど